

チャイルドレジスタンス (CR) の考え方



子供の事故が起きた場合には、保護者の責任や不注意を問われることが多く、保護者自身も自らの責任と考える傾向にある。

子供の安全を守るためには、保護者による製品の保管管理や環境づくりは重要であるが、事故の発生頻度が変わらない場合には、社会が学び、製品・環境の安全設計について考えていく必要がある。

チャイルドレジスタンス (CR) とは



製品を子供に扱いにくくすることで子供のケガや事故を予防する考え方。

子供が使えないようにする「チャイルドロック」に対し、CRは規定の時間内に一定割合の子供が操作できなくするものである (ISO8317では10分間で8割の子供が操作できなければ合格)。

「一定割合が操作できない」ことに示されるように、CR容器は、子供にとって「開封が絶対に不可能なもの」ではない。CR容器の利用は、保護者が危険な製品を子供の手の届かないところに保管するといった日常の管理を行ったうえで、最終的に事故防止の一方策として位置づけられるものである。

なお、CR容器は「乳幼児難開封性容器」や「安全容器」、ふたにCR機能をもつものとして、「安全キャップ」や「セーフティキャップ」などとも呼ばれる。